

委員からの事前意見一覧

(1) 計画見直しに係る意見(透明度)

資料6-3

No.	委員名 (御発言順)	意見・提言の内容	資料番号	関連する 戦略番号	対応内容(今後の方針等)	部局
1	中尾委員	16-1 行政手続の電子化率 オンラインで申請した補助金などの結果が、紙1枚にもかかわらず郵便でもなくレターパックで送られてくることがある。これは無駄ではないだろうか。 そもそもオンラインで申請を受け付けている時点で、行政側も受け取り側もメールで通知できる環境があるはずだ。結果も(郵送ではなく)メールで送るべきではないか。	資料4	戦略16	県の電子申請・届出システムで申請を受けたものについては、メール通知を行う環境は整っており、職員採用試験における「受験票」の送付など、既に一部で活用しております。 しかしながら、公印の押印を要する文書につきましては、現行の取扱いでは、メールでの通知が認められておりません。 県が発出する文書については、これまで押印を原則としておりましたが、令和8年4月から「公印の押印を限定」する取扱いに変更する予定です。 この見直しにより、公印を押印しない文書の範囲が拡大し、電子的に施行可能な文書も拡大する予定です。現在、押印をする文書の範囲について検討中であり、可能な限り結果をメールで送付できるよう対応したいと考えております。	企画
2	赤松委員	(16-2, 3) 超過勤務時間数削減、年次有給休暇の取得日数増加は順調に進んでいるようですが、それに伴う業務の精選や人的配置は充分にできているのでしょうか。(知事部局)	資料4	戦略16	サービス残業等が生じないよう、超過勤務の事前命令・事後確認による適切なマネジメントを行うとともに、職員が気兼ねなく年休が取得できるよう、「あわ・なつ休暇促進期間」を設定する等、メリハリのある「働きやすい職場環境づくり」を進めています。 あわせて、業務のゼロベースでの見直しやAI活用等による効率化等、前例踏襲の打破による「仕事の進め方改革」を職員に促しております。 また、人的配置については、各所属における超過勤務の状況等も踏まえ適切に実施するとともに、年度途中においても機動的な人的配置を行っているところです。	企画
3	赤松委員	(16-4) 男性職員の育児休業取得率が飛躍的に向上しているのは素晴らしいと思うが、休暇取得による所属での他職員への負担が増えていることはないのでしょうか。代替者配置等の対応はどのようになっていますか。安心して育児休業を取得できる環境を整えてください。具体的に何人が平均何日程度取得していますか。(知事部局)	資料4	戦略16	育児休業を取得しやすい環境を整えるため、正規職員や会計年度任用職員の代替配置等を行うとともに、育休取得者の業務を引き継いだ職員の頑張りを、給与面で評価する仕組みとして、該当する職員に対し、勤勉手当の加算措置を実施しています。 また、男性の育児休業については、令和6年度において、49名の方が平均132日取得しています。	企画
4	岡田委員	・全93項目のうち、約65%が「順調」評価。特に子どもの居場所、防災、共生、行政DXなどが好調。 ▶所感として、指標の「どこまで達成できたか」という数字だけを見るのではなく、その取組が実際に地域の暮らしや人の動きにどんな変化を生み出したのか、成果がどこまで広がっているのかといった“波及の実感”も大切に評価していく必要があると思います。また、後退傾向にある項目については、行政だけで抱え込むのではなく、地域の団体や企業、学校などと力を合わせて取り組むことで行政頼みの過度が和らぐかと感じました。	資料4	—	現在の総合計画において設定している「KPI」については、どれだけの成果をもたらしたかを表す、いわゆる「アウトカム指標」を積極的に盛り込んでおります。 一方で、委員ご指摘のとおり、「地域や人の暮らしがどう変わったか」という質の向上や波及効果を把握することは極めて重要であると認識しております。今後とも、各部局において、県民の皆様との対話等を通じ、地域の変化をより丁寧に汲み取り、計画や各施策へ反映するよう努めて参ります。 また、後退傾向にある項目につきましては、ご提案いただいたとおり、地域の関係者の皆様と課題を共有し、協働して解決を図ることで、「未来に引き継げる徳島」の実現を目指して参ります。	企画
5	岡田委員	施策の方向性・工程 ・310項目中20項目を見直し。 教育の多様化、職域健康推進、スマート農業、地域交通DX、防災福祉連携、庁内DX、合同庁舎整備などが中心。 ▶所感として、各分野で「単独実施」から「協働型施策」へ移行している点は時代の変容に応じて非常に有効的だと感じます。また、「防災×福祉」「教育×地域」「交通×デジタル」など、分野横断テーマを重点プロジェクトとして位置づけると、協働体制の構築の機会にもなり、計画の推進力が高まることが推測されます。	資料1	—	委員ご指摘のとおり、各施策を「協働型」で分野横断的に進めるとの方向性については、複雑化する地域課題に対応する上で、非常に重要であると認識しております。 引き続き、各施策の実施に当たっては、ご指摘いただいた「分野横断」の視点をしっかりと保ちながら、計画を着実に推進して参ります。	企画

委員からの事前意見一覧

(2) その他意見(透明度)

資料6-3

No.	委員名 (御発言順)	意見・提言の内容	関連する 戦略番号	対応内容(今後の方針等)	部局
1	岡田委員	<p>今回の計画見直しは、社会環境の変化や地域現場の課題を丁寧にくみ取り、現場感と実効性のある形に再構成された点が非常に印象的であり、担当部局の皆様の尽力に感謝いたします。従来の取組を踏まえつつ、「安心度・魅力度・透明度」の3軸を明確に保ちながら、「デジタル」「連携」「共生」「持続性」といった横断的な視点を新たに強調したことは、今後の県政運営の方向を的確に示すものであり高く評価できると考えます。一方で、施策間の連動や、実施主体間のつながりについては、さらなる深化が期待され、県庁内部での横の連携(部局間・分野間の情報共有)、県と市町村を結ぶ縦の連携(方針と現場の往還)、そして市町村同士の横の連携(相互支援や学び合い)の3つの連動軸を明確にすることで、より統合的で一体感のある推進体制が生まれるのではないかと考えます。</p> <p>以上です。今回の見直しを通じて、徳島のこれからがより明るく、希望の持てる方向へ進んでいくことを心から願っています。県民一人ひとりの暮らしに寄り添いながら、地域の力を信じて進めてこられた県職員の皆さまのご尽力に、心より感謝と敬意を申し上げます。</p>	—	<p>今回の計画見直しについて、高いご評価を頂き、誠にありがとうございます。</p> <p>また、ご提案いただきました「3つの連動軸(県庁内部、県と市町村、市町村同士)」については、計画を真に実効性の高いものとするための重要な視点であると認識しております。計画の推進に当たっては、各施策の実行段階において、部局間の情報共有や、市町村との緊密な対話、さらには地域間の相互支援が有機的に機能するよう努めて参ります。</p> <p>今後とも、計画の着実な推進を通じて、県民一人ひとりの暮らしに寄り添い、地域の力を最大限に引き出せるよう、しっかりと取り組んで参ります。</p>	企画